
政策提言報告書

こおりやま広域圏
チャレンジ「新発想」研究塾 2024

目 次

◆ チャレンジ「新発想」研究塾とは	3
◆ 活動の経過	5
◆ 報告会	9
◆ Look Back 研究塾を振り返って	16
◆ 関係資料	18
▪ 研究塾生名簿	
▪ こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱	

チャレンジ「新発想」研究塾とは



住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、**新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査**

研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）を設置しています。

チャレンジ「新発想」研究塾とは

本市では、これまでも若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

2018年度（平成30年度）からはこおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の連携事業として、こおりやま広域圏の市町村

職員に対象者を拡大し、今年度は、郡山市・須賀川市・二本松市・田村市・本宮市・大玉村・鏡石町・天栄村・猪苗代町・玉川村・三春町・小野町の12市町村の若手職員15名で取り組みました。

若手職員による政策研究会の変遷

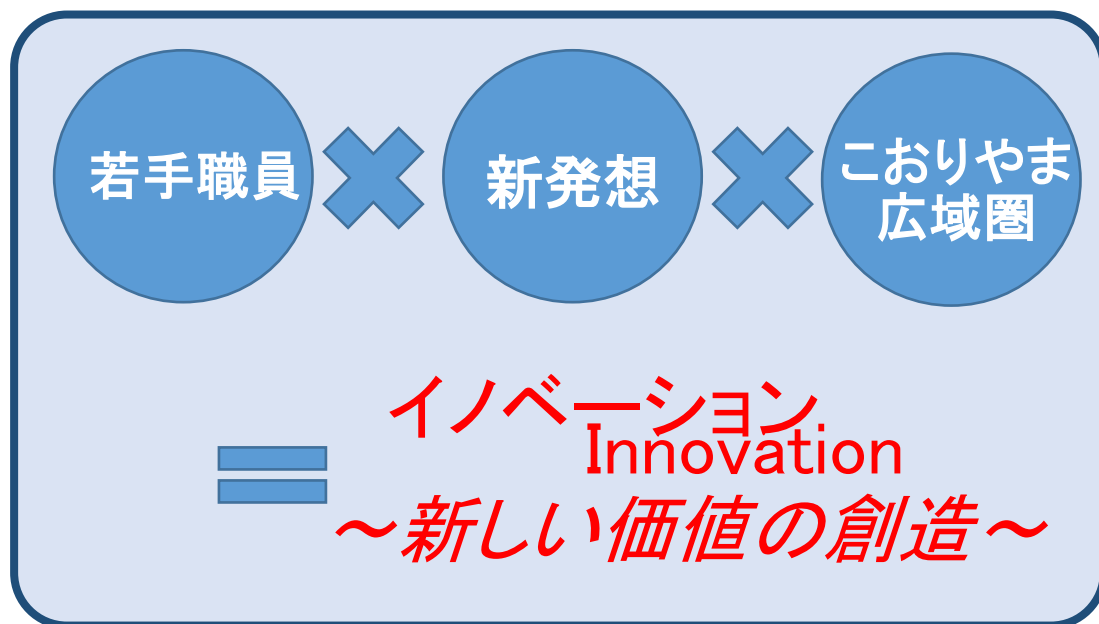
平成8年度～平成17年度 『きらめき21推進研究会』

平成18年度～平成24年度 『ハーモニー推進研究会』

平成25年度～平成29年度 『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』

平成30年度～ 『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

塾生の対象をこおりやま広域圏17市町村に拡大！！



こおりやま広域圏とは

こおりやま広域圏とは

郡山市を中心に、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町の**5市8町4村**で形成する「こおりやま広域連携中枢都市圏」のことです。17市町村それぞれの強みや資源を生かし、**人・モノ・情報**が行き交う歴史的・文化的にも結びつきが強い地域です。



17市町村のネットワーク

人口減少・少子高齢社会の進展により、地域における行政サービスの質の維持が難しくなることが予想されています。

そこで、近隣市町村が互いに手を取り合い、協力して圏域内の行政サービスを提供するな

ど、「**ONE TEAM 17**」の精神のもと、互いに地域の良さを尊重し、「**広め合う、高め合う、助け合う**」関係を構築し、圏域の皆さんが、将来も安心して快適に暮らせる地域づくりを目指しています。

つながる・広がる こおりやま広域圏



活動の経過

年間スケジュール

【スケジュール】

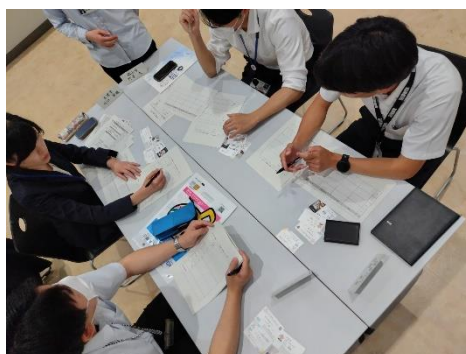
6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月	
上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬
開 講 式 ・ オ リ エ ン テ ー シ ョ ン						交 流 会									報 告 会
										先進地視察					
										調査・研究					

開講式・オリエンテーション【2024 年 6 月】

開講式は、6 月 18 日に開催しました。

今年度は、郡山市2名、須賀川市1名、二本松市1名、田村市2名、本宮市1名、大玉村1名、鏡石町1名、天栄村1名、猪苗代町2名、玉川村1名、三春町1名、小野町1名(男性10名、女性5名)の計15名の意欲あふれる若手職員が公募により集まりました。

開講式では、塾生の紹介を行い、本研究塾の塾長である品川市長から激励をいただきました。その後、事務局より今後のスケジュールや課題抽出の進め方などのオリエンテーションを行いました。



調査・研究スタート(6月～1月)

<基本的な進め方>

- ・開催頻度、時間は塾生にて調整を行う。
- ・対面、オンラインを併用し討議を行う。
- ・討議内容は、記録票にまとめ、進捗等を事務局へ報告する。



①調査研究テーマの方向性を決める

1 班：婚活×ライフデザイン支援事業

2 班：廃校を活用した地域コミュニティの創出

3 班：広域圏のマップを主にしたゲームアプリの構築

各グループは、まず具体的な調査研究のテーマ設定に取りかかりました。

こおりやま広域圏が抱える課題等を元に、様々な地域が置かれる現状を調査していくことで、お互いの興味関心を踏まえ、調査研究の方向性を決定しました。

②提案内容について具体化する

次は、具体的な提案内容について検討しました。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進事例などを調査し、そして「こんな事業があったら面白い」と若手職員らしい『**新発想**』を追及しました。

交流会(9月)



調査研究の進捗状況の共有及び昨年度塾生からのアドバイス、班の垣根を越えた交流等を目的として、9月に開催しました。

先進地視察の実施(11～12月)

研究テーマに基づく実際の取組を知るため、現地視察とオンライン視察を実施しました。視察先の選定やアポイント等についても塾生が行いました。各グループともに行政のみならず、

民間団体への視察も行い、幅広く知見を深めました。この取組を通し、塾生同士の連携・つながりをさらに深めることができました。

1 班(婚活×ライフデザイン支援事業)

株式会社 IBJ

日本最大級の結婚相談所ネットワークであり、日本における婚活の先駆者である株式会社 IBJ が経済産業省の実証事業として「ライフデザインセミナー」を開催予定。この施策立案から実施までの手法を学ぶ。

スリール株式会社

令和6年度京都若者ライフデザイン推進事業の事業受託者であるスリール株式会社において、「ライフデザインセミナー」の施策立案から実施までの手法を学ぶ。

きょうと婚活応援センター

AI マッチングシステムの活用等により成婚率 45%を誇るきょうと婚活応援センターにおいて、「きょう婚ナビ」や「ライフデザインセミナー」の施策立案から実施までの手法を学ぶ。



株式会社 IBJ



スリール株式会社



きょうと婚活応援センター

2班(廃校を活用した地域コミュニティの創出)

なめがたファーマーズヴィレッジ

人口減少で廃校が増えていく現状で、廃校を活用した取り組みについて学ぶ。



なめがたファーマーズヴィレッジ

NTTe-City Labo(NTT 中央研修センター)

持続可能な循環型社会の実現に向けた最新技術を見学し、廃校利活用に反映可能な事例について学ぶ。



NTTe-City Labo(NTT 中央研修センター)

3班(広域圏のマップを主にしたゲームアプリの構築)

一般社団法人フィールドディスカバリー協会

ゲームアプリ「フィールドディスカバリー協会」の開発の経緯や詳細の聞き取り調査し、地域振興を目的としたゲームアプリを学ぶ。

群馬県地域創生部文化振興課世界・歴史遺産係

ゲームアプリ「群馬 HANI-アプリ」の開発の経緯や詳細の聞き取り調査し埴輪をメインとした社会学習及び生涯学習の要素をもつゲームアプリを学ぶ。



群馬県庁



一般社団法人フィールドディスカバリー協会

報告会

将来を担う若手職員による政策提言！！

6月に研究塾が開講して以降、約7か月間におよぶ調査研究、先進地視察を行ってきた成果について、1月29日に市町村長を始め、職員、インターンシップ生、視察先関係団体等に広く公表しました。こおりやま広域圏各市町村をオンライン（Zoom・YouTubeによる同時配信）で繋ぎ、対面とオンライン併用で実施しました。



発表の様子

今年度は、各班が「婚活×ライフデザイン支援事業」「廃校を活用した地域コミュニティの創出」「広域圏のマップを主にしたゲームアプリの構築」という課題を研究し、政策提言を行いました。報告会を迎えるまで、リハーサルを重ね、内容だけでなく、誰もが興味を抱くようなプレゼンテーションとなるよう工夫を凝らしました。



集合写真

代表挨拶【郡山市 見越 美聡 さん】

7か月間の活動を振り返りますと、普段は異なる自治体の職員である塾生同士が、同じ目標に向かって議論を重ねる、貴重な経験をすることができました。また、活発な議論を重ねる中で班員と絆が生まれ今後それぞれが迎えるライフステージやいつか退職を迎える日までお互いの近況報告をしたいねなどと話すようになり郡山広域圏が大切な友人や家族が住む、守っていききたい場所という当事者意識がより鮮明なものとなりました。まさにこおりやま広域圏の合言葉である「広めあう、高めあう、助け合うこと」を実感した日々でした。この経験を活かし今後も所属自治体やこおりやま広域圏に貢献していきたいと思えます。

提案概要

1班「婚活×ライフデザイン支援事業」

○課題:人口減少

提案内容「結婚の機運の醸成 及び こおりやま広域圏での移住・定住促進」

・人生の航海図(ロードマップ)を描くライフデザイン支援事業

中高生: 将来の人生設計を考えるきっかけとなり、進路の選択肢が増える。

大学生: 人生設計に沿った目標の進路を決めることができる。

20～30代: 結婚を視野に入れ、恋活・婚活の行動をし人生のパートナーを見つける。パートナーと結婚し、子供に恵まれる。

50代: パートナーや子供と一緒に幸せな家庭生活を送る。

・こおりやま広域圏で恋活イベント・移住婚ツアーを実施

広域圏内の観光地にスポットを当てた日帰り・単発の恋活イベント

→若手社会人の結婚に対するポジティブなイメージを醸成する。

→同世代との交流の機会と、結婚も含めたライフデザインを考える。

Ex)ビッグパレットクリスマスパーティー、グランピング in 天神浜

住人に会えて話せる2泊3日の移住婚ツアー

→圏外転出者に広域圏に再び興味を持ってもらう。

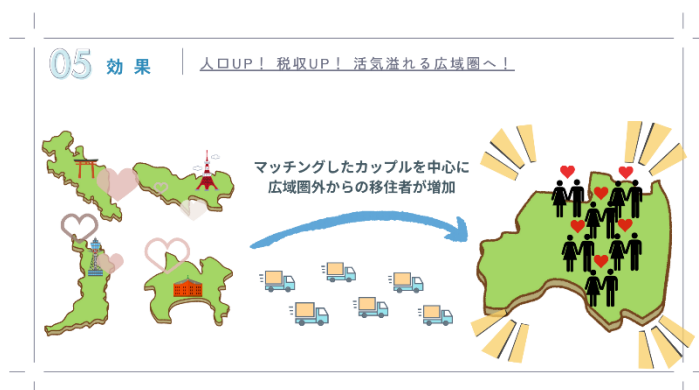
→移住希望者が実際に広域圏へ足を運び、地域で暮らし住人と触れることで思い描いていた生活とのギャップを埋める

・マッチングアプリを活用した移住婚 PR 促進事業

大手マッチングアプリ企業と連携し、民間事業のPR力を借りて、圏外転出者や移住希望者をターゲットに恋活イベントや移住婚ツアーの周知を図る。

→マッチングアプリの出身地・居住地機能を活用し、広域圏出身者や都市部居住者へ集中的にバナー広告を展開する。

○目標



2班「廃校を活用した地域コミュニティの創出」

○課題 人口減少・少子高齢化

○提案内容「廃校利活用」

・芸術文化関連施設としての利用

文化財の展示:文化の継承

有名絵画の展示:芸術との交流

子どもたちの作品を展示:学校の思い出の保管

地域と世界の作品を展示:文化・芸術の融合

→文化・芸術の拠点として住民の「心の拠点」へ

・6次化農業体験施設としての利用

特産品の生産・加工

農業体験と加工体験

料理教室や地元食材を使った食文化体験

特産品を使ったカフェ・農家レストラン

直売所やマーケットの設置

○目標



3班「広域圏のマップを主にしたゲームアプリの構築」

○課題 人口減少

○提案内容 「こおりやま広域圏『17』QUEST～萌やせ郷土愛(シビックプライド)～」

・育成ゲーム

対象:小学生～中学生

17市町村のゆるキャラのほか、地元につながる伝説や歴史上の人物、自然遺産などをモチーフにしたキャラクターの育成ゲーム

→遊びながら広域圏を学べる

ゲームをプレイ・遊んでいるうちに、地元に関心になり、ゲームを楽しむために自ら広域圏を知ろうという「探求心」が得られ、郷土愛が育まれる。

→デジタル教材としての活用

ゲームで重要なことは「遊んでもらうこと」。地域学習のデジタル教材として活用できれば、行政はその壁をクリアすることができ、教育現場では、子どもたちが楽しみながら地元を学び、郷土愛を育成。まさに Win-Win の関係

→地元との密着

地元の伝説や特産品、クイズはマニアックなものを積極的に採用。そうすることで親に聞き、祖母に聞き、先生に聞き、地元の人に聞きと、コミュニケーションが広がり、最後には地元の温かさを知ることになり、郷土愛が生まれる。

・リアルワールド RPG ゲーム

対象:高校生以上

ロゲイニングをベースとした端末の位置情報を利用し、現実世界に設定されたチェックポイントを巡りながらポイントを集め、「ミッション」や「クエスト」に挑戦するゲーム

→遊びながら広域圏を学べる

ゲームをプレイ・遊んでいるうちに、地元に関心になり、自らの足で歩き、五感で「探求」することで地域をより身近に感じ、郷土愛が育まれる。

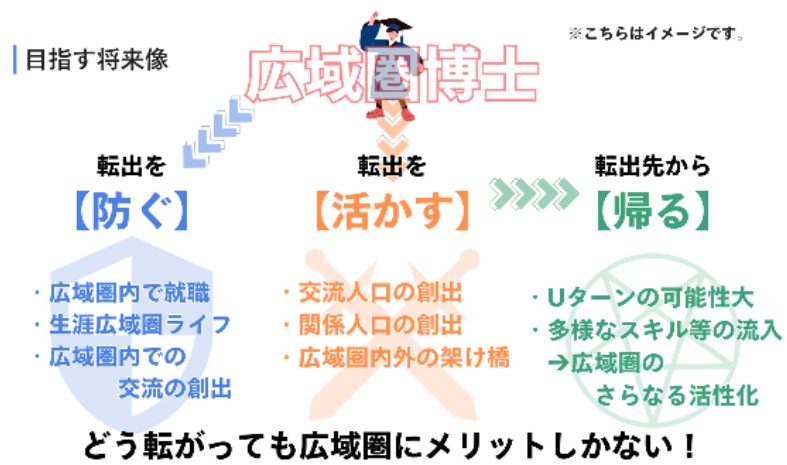
→デジタル教材としての活用

ゲームを通して実際に地元の観光地やグルメスポットに出向き、訪れている人たちと触れ合うことで、地元の魅力を再認識し、郷土愛が育まれる。

→地元との密着

ゲームを通して様々な企業や産業に触れ、クエストやミッションの中で簡易的な職場体験・インターンを経験することで、就職を考える上での材料となり、広域圏内への就職のきっかけとなる。

○目標



※各班の提案内容詳細は、ウェブサイトをご参照願います。

Look Back 研究塾を振り返って

研究塾が終わり、今の心境や活動期間を振り返っての様々な意見を聞かせてもらいました。

— 実際に研究塾に参加してどうでしたか？

- 担当部署にならなければなかなか経験できない、政策関係の内容について考えることができ、良い経験になった。普段は自らの業務ばかりに目が行きがちだが、この取り組みで視野が広がったように感じる。また、他自治体の職員、近い年代の職員と交流する機会はほとんど無いので良い刺激になり、楽しい体験で
- いつもの通常業務では、味わえない体験・経験をできた点です。そもそも政策形成という機会（長期間の）と他の市町村の職員と交流することがなかなか無く、研究塾でしか実現できない体験をすることができたのがよかったと思います。
- 政策形成能力の向上、広域圏内の部長級相当職員の方々への事業提案の機会経験、最も価値のある収穫と感じる点は広域圏内若手職員のネットワーク、人脈が作れた
- 通常の業務では政策形成に携わることがなかったため今回の研究塾を通して政策形成の基本的な考え方や手法を学ぶことができました。また、同世代の他市町村の若手職員で編成されたメンバーのため、既存の制度や慣習、今までの概念に囚われない柔軟な発想から多くのアイデアが生まれ、毎回の討議がとても価値のあるものになりました。3班は討議を各市町村で行い、討議後にはその市町村のグル

— 先進地視察の感想を教えてください。

- 対面の方が得られる情報が多かったので、時間と予算が許す限りは現地視察を行った方が良かったと感じた。ただし、オンラインはスケジュール調整がしやすく、手軽に視察ができるのでとても便利であったので、そちらもどんどん活用していくべきだと思う。なお、視察日時点での自分たちの進捗具合によって、得られる成果に差が出るように思うので、視察日までの目標を定め討議を進めておくべきだと感じた。
- 3班の視察先2か所は、発表内での紹介は時間の都合上叶わなかったが、提案内容に生かすことができ大変勉強になった。現地に伺ったのも、それぞれの土地の雰囲気を感じられ、こおりやま広域圏を客観的に見る機会にもなり良かった。
- 入庁してから今まで業務の中で先進地視察に携わったことがなかったため、先方への依頼から現地に行くまでの工程を勉強できたことはとても良い経験になった。

— この経験をどのように活かしていきたいですか？

●他市町村の若手職員に刺激をもらいながら、約7カ月間活動することができ、個人的には成長させていただいたと思っています。今後は、研究塾で学んだことを活かせるときに活かし日頃の業務に励みたいと思います。私たちが活動できたのは、市町村長はじめ、関係部課長、研究塾事務局等々、たくさんの方々のお力添えがあったからこそです。この感謝の気持ちは今後の業務で返したとおもっています。

●職場では担当業務によって、今回のように自由に発想する機会がなかなか得にくいこともありますが、この経験を生かして、今回のメンバーとは今後とも情報共有しながら、自分の自治体と広域圏全体の発展に寄与できるよう働いていきたいと思っています。

●約8ヶ月にわたり討議を重ね、新しい発想や多様な意見に触れることで刺激を受け、私自身の視野が広がると同時に柔軟な思考が促進し有意義な経験になりました。政策の立案過程では、新しい技術やトレンドを取り入れ、地域に即した施策を展開することの意義や長期的

— 皆さん、ありがとうございました。

●約半年間、通常業務もありながら、研究塾での活動お疲れさまでした。塾生同士の交流は広域圏各市町村のネットワークでもあるので、このつながりをぜひ皆様の次の活動に生かしていただければ幸いです。自治体の垣根を超えた事業が今後生まれつつあることを期待しています。

また、来年度も今年度同様、交流会を開催したいと考えております。その際は、今年度得た知識や経験を基に次期塾生のサポートをしていただけると幸いです。

研究塾を経験した皆さんのさらなる活躍を期待します。

研究塾生名簿

▼1班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	政策開発課	主査	見越 美聡
2	田村市	農林課	主事	横山 大成
3	大玉村	税務課	主事	佐藤 亮平
4	猪苗代町	総務課	主事	加藤 晴花
5	小野町	地域整備課	主事	佐久間 雄大

▼2班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	安積行政センター	主事	門澤 大
2	本宮市	財政課	副主査	川口 華織
3	鏡石町	都市建設課	主事	相樂 幸太郎
4	天栄村	産業課	主事	物江 陽祐
5	猪苗代町	企画財務課	主事	安部 嘉葵

▼3班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	須賀川市	農政課	主事	佐久間 雄也
2	二本松市	生活環境課	主査	塩田 大
3	田村市	観光交流課	主事	尾崎 花穂里
4	玉川村	企画政策課	主事	高久 雄生
5	三春町	税務会計課	主事	藤橋 凧沙

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

(設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾(以下「研究塾」という。)を設置する。

(調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長及びこおりやま広域圏各市町村長に報告する。

- (1) 住民福祉の増進につながる取組み
- (2) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (3) 先導性・モデル性のある取組み
- (4) こおりやま広域圏の発展に資する取組み
- (5) ICT 利活用による取組み

(組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

- 2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、政策開発部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

(各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

(庶務)

第7条 研究塾の庶務は、政策開発部政策開発課において処理する。

(委任)第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾2024

政策提言報告書

令和7年3月発行

本市ウェブサイトからも
ご確認いただけます。

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

T E L 024-924-2021

F A X 024-924-2822

E - m a i l seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp

